

# 広島大学附属幼稚園

## 園児が幼稚園の森の木を使って遊具と家具作りに挑戦！

### 保育環境づくりのポイント

現在、SDGs達成に向け、幼児期からのESDが重要とされている。これらは、「環境」「社会・文化」「経済」の3領域を通じて子どもの生活や遊びを支える視点を含め、総合的な取り組みが必要とされる。本園は、園庭や園舎が森に囲まれた環境にあることから森の自然環境を生かした保育を展開してきたが、自然環境と室内環境の繋がりが課題としてあがった。そこで、保育者は戸外と室内、テラスなど、場と場が繋がる環境を目指し、幼稚園内の森の木を使って遊具や家具を作る計画を立てた。この環境づくりのポイントは①年長児が仲間や講師(建築士)、保護者とかかわりながら時間をかけて製作する体験を通して、愛着ある環境を目指す。併せて他学年が活動を見ることで、意欲や態度を受け継ぐ。②材料を幼稚園の森の木を使用することで、園の中の資源の循環性を知り、持続可能な社会の担い手となる子どもの育成を目指す。これらの取り組みの中で、ESDの視点(6つの軸と7つの能力)に立った保育を実践し、「5つの力」を育む。

～子どもたちのこの力を育みたい～

- ☑感じる・気付く力
- ☑うごく力
- ☑考える力
- ☑やりぬく力
- ☑人とかかわる力

### 取組み内容

#### 1. 作りたい遊具や家具について話し合う

9月

- ①材料の木はどうするか？  
→森の木を使えばいいじゃん！いっぱいあるし！
  - ②作りたいものは？  
→衝立・お店屋さんカウンター・カブラ・楽器・射的・箸…
  - ③製作を手伝ってくれる人は？  
→大工さん、お父さん、お母さん…
- 援助：幼児と講師(建築士)を繋げる。  
※活動の過程を保護者へ配信する(9月～1月計8回)

#### 2. 幼稚園の森の木について関心を深める

10月

- ①木の形・感触・匂いなどを感じる
- ②幼稚園にある木の種類を知る→ネズミサシ・ヒノキ・スギ…
- ③遊具や家具づくりに適した木を覚えてもらう  
→使う木を決定する→ネズミサシ
- ④保護者への共有(ネズミサシの木に案内する)  
援助：身近な環境にある木について講師とのかかわりを通して、より意識できる環境の設定。



#### 3. 計画を実行する

10月

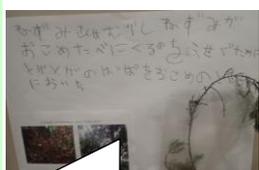
- ネズミサシの木を伐採する
  - ①専門家同士の協働を近くで見る
  - ②自分たちができる活動と一緒にいる
  - ③木の特性を知る
- 援助：講師の「仕事」が体験できる場の設定と、ネズミサシについての関心の広がりを支える。



#### 4. 木や木の遊具や家具作りに関心を深める

10～12月

- ①木や、木の遊具や家具作りに関心を深める
- 援助：講師から学んだこと、調べたこと、気付きを共有する時間と場の設定。



ネズミサシの名前の由来/  
木の年齢 など

「幼稚園には木で出来ているものが結構あるね！」  
「写真撮って紹介したい」  
「これは本当に木で出来ているの？」「見分け方は叩いてみて出る音！」

- ②伐採した木が製作に使えるようになるまでに要する時間の長さや木の変化の過程を知る
- 援助：全員で動画配信を見る



乾燥・裁断・加工過程

木材加工-04

#### 5. 遊具や家具作りを行う

1月

- 衝立・お店屋さんカウンター・カブラ・木琴・射的・箸作りを行う
- 援助：計3回の製作活動を設定し、時間をかけて製作する経験と、仲間、講師、保護者と一緒に活動を行う中で協働意識を高める。また、食事を一緒にとるなど、活動外でのかかわりをもてるようにする。



お店屋さんカウンター  
3学年分完成！

#### 6. 関心をもち続ける

- 製作したもので空間や場を構成する
- 援助：幼児の主体的な遊びを支える/異年齢のかかわりを支える



保育室では、作った衝立で自分たちで空間を作っています。カブラが増えて嬉しい！



1.2.3…この木38歳！



ホールのお店は、異年齢のかかわりが生まれます

### <今回の取組みを通して>

幼児に必要な木材をどうするかを問いかけた際、「幼稚園の森の木を使えばいい」と即答であった。身近に木があり幼児のかかわる環境の1つであることから日常の保育で共有されていた。そこに本活動によって、一本の木がどのような過程を経て遊具や家具になるのかを体験したことで、幼児は園の資源の循環性を実感することができた。また、後に園外で、「これ、ネズミサシの葉だ」「この切り株は1.2.3…38歳！」と関心をもち続ける姿があった。この2つのことから「今」と「まだ見ぬ未来」とのつながり考えて保育を行うことが、持続可能な社会の担い手となる子どもの育成に繋がると考える。今回、幼児、講師(建築士)、保護者とともに時間をかけ、活動を行った。保育を「幼稚園」という組織だけで行うのではなく、様々な人に協力を得ることで、「5つの力」はより豊かに育まれるということを感じた。 年長児クラス せらぐみ担任 中川 順子

